

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 高須 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

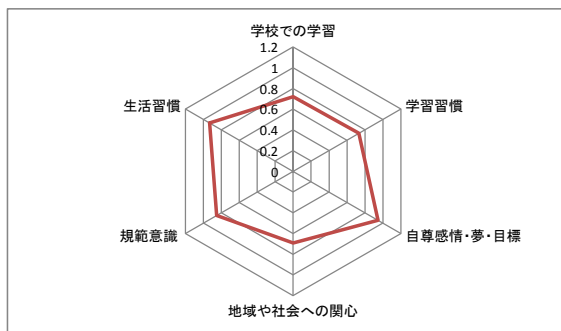
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	71	4.3	54	8.6	61	5.0	50	9.6	60
全国	8.5	71	4.4	55	8.9	64	5.1	52	9.6	60

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、無回答率は全国より低く、問題に向き合う姿勢が見られた。 ・読む能力を問う問題に課題があり、情景描写を基に人物の心情をとらえる力を高めていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・主語と述語の関係に注意して文を正しく書く問題では、正答率が高い。	
	努力が必要な問題	・人物の心情を情景描写を基にとらえたり、目的に応じて必要な情報をとらえたりする問題では、正答率が低い。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っていて、その差は国語Aよりも大きい。 ・無回答率が高く、特に記述問題でその傾向が強い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題では、比較的正確率が高い。	
	努力が必要な問題	・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読む問題では、特に正答率が低く、無回答率も高い。	
算数A	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、無回答率は全国より低く、問題に向き合う姿勢が見られた。 ・数と計算領域の正確率が特に低く、2つの数量の関係をとらえることができていない。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・小数のわり算を用いて針金1mの重さを求める問題では、正確率が高い。	
	努力が必要な問題	・2つの数量の関係を理解し、数直線上に表す問題では、特に正答率が低い。分度器を用いて180°よりも大きい角の大きさを求める問題でも、正確率が低い。	
算数B	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国より下回っているが、その差は算数Aよりも小さい。 ・記述式の問題において無回答率が高く、考えの理由を記述する問題では、約4分の1の児童が無回答であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・数値を表に整理し、それを基に判断して答えを求める問題では、正確率が高い。	
	努力が必要な問題	・考えを解釈して式に表す問題や、考えの理由を根拠を明確にして記述する問題では、特に正答率が低く、無回答率も高い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・平均正答率は全国を下回っており、特に「B 生命」の区分において課題が大きい。 ・算数Bと同様に、記述式の問題において無回答率が高い。特に、実験を通して導き出す結論を書く問題では、約5分の1の児童が無回答であった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	・電流の流れ方について、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ問題や、食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ問題では、比較的正確率が高い。	
	努力が必要な問題	・食塩水を熱したときの食塩の蒸発について、実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述する問題では、特に正答率が低く、無回答率も高い。	

4. 学校での学習活動, 家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や目標をもっている児童や、人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合が比較的高い。道徳科や子どもつながりプログラムを通して、児童の自尊心がより一層高まるような取組を継続していく。 ・学校の宿題をしている児童は98.6%いるが、自分で計画を立てて勉強をしている児童がとて少ない。自主的に学習する態度を育てていく必要がある。 ・朝食摂取率が全国より10ポイント以上低い。食育の取組をさらに進めて日常化を図り、心身ともに健康な児童の育成に努めていく。自主的に学習する態度の育成とあわせて、家庭との連携を図るようにする。

5. 調査結果から明らかになった, 課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、「めあて」「まとめ」「振り返り」を設定した授業を確実に実施する。 ・1時間の授業の中で「話し合う活動」を計画的に設定し、児童が考えを深めたり広げたりすることができるようにする。 ・学力定着サポートシステムを活用し、基礎・基本の確実な定着を図るとともに、診断問題を通して児童の実態を把握する。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用し、家庭と協力して児童が自主的に学習する態度を育成する。 ・「高須小よいこのきまり」を配布し、家庭と連携して児童の規範意識を高めるよう努める。 ・食育の取組を充実させ、朝食摂取率を高めるとともに、規則正しい生活習慣を身に付けさせていく。
